

4 - 1 佐渡弥彦地方の地殻変動 (5) —佐渡海峡における最近の地震活動—

Crustal Movements in the Sado-Yahiko District (5)

東京大学地震研究所 弥彦地殻変動観測所
Yahiko Crustal Movements Observatory
Earthquake Research Institute University of Tokyo

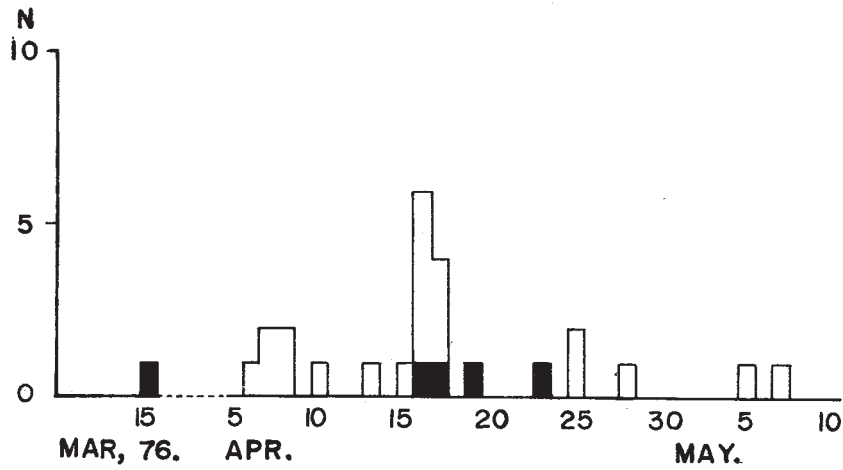
佐渡弥彦地方ではさる4月16日～23日にかけて震度Ⅰ～Ⅱ程度の地震を4回にわたり感じた。震源はいずれも小木半島南南西の海底といわれる（気象庁発表）。

このあたりは日頃地震は殆んど起っていない。事実、当観測所の開設いらい9年になるが、佐渡海峡の有感地震は2～3回に過ぎない。昨年4月から5月にかけて当観測所の地震計（電磁式煤書記録上下動，倍率10Hz帯で数万倍程度）にS-P 3～6秒程度の地震（無感）が10数個記録されたが，その多くは小木半島南方のものと推測される（そのひとつの震央がここに算定され，ほかの地震も波形が共通）。

今回の地震活動は図1の経過をたどった。4月6日に無感の地震があり（3月15日にも有感1回），16日には6回（有感1を含む），翌17日10^h02^mには主震格のもの（相川ほか震度Ⅱ）が起きた。これまでの間，S-Pは4秒前後のものばかりであったが，17日を境に5.5～9秒が卓越するようになった（図2）。

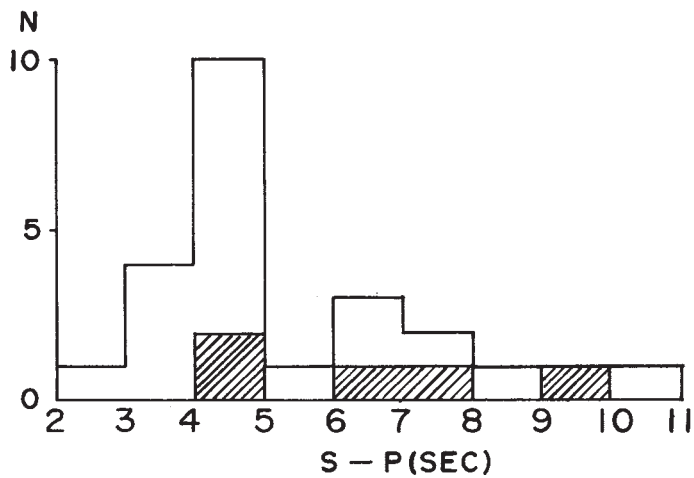
図3が示す通り，佐渡海峡は周辺に数多くの破壊地震を見ながらその内部には大きな地震の記録がない。今回の地震はその意味でも興味深い。

（若杉忠雄）



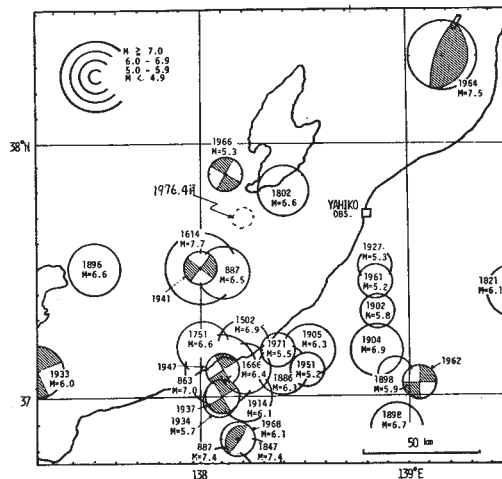
第1図 地震の日毎回数 (黒印:有感)

Fig. 1 Daily number of earthquakes (full column: felt shock).



第2図 S - P 時間の頻度分布 (斜影部:有感)

Fig. 2 Frequency distribution of S - P time (hatched column: felt shock).



第3図 佐渡弥彦周辺地域の地震活動 (理科年表・気象庁資料に基づく)。メカニズム (下半球表示, 半影部は押し) は市川 (1971) ほかによる。(第3報<会報第9号 (1973)>の図に加筆の上転載)。

Fig. 3 Large earthquakes in and adjacent to the Sado-Yahiko area. Source mechanisms (lower hemisphere, shadowed parts for contraction) refer to Ichikawa (1971) and others (see the third report (1973) in this series, from which the present figure is reproduced with modification).